

2006年度 新入社員「会社や社会に対する意識調査」結果

“「コミュニケーション」重視の新入社員”

社団法人日本能率協会（会長 富坂良雄）は、2006年度の新入社員に対して「会社や社会に対する意識調査」を行った。今年度の新入社員が就職や仕事、将来や自身のスキルアップについてどのような意識を持っているかを調査した。

1. 「コミュニケーション」と「人間関係」を大切にしたいと考える新入社員

今年度の新入社員は、「コミュニケーション」と「人間関係」を大切にしたいと考えている傾向がうかがえた。本アンケートでは、今後伸ばしたい能力として「コミュニケーション能力」（31%）が「語学力」（32%）に次いで高くなった。

また、入社する基準としては、「雰囲気がいよこと」（19%）を最も重視していた。これは、会社を選ぶ基準として「やりたい仕事ができる業種」（24%）「やりたい仕事ができる職種」（22%）をあげていたのとは対照的となった。仕事と人間関係については、「人間関係を重視し、できるだけ協調し仲良く仕事をしたい」が約8割を占めた。

できればやりたくない会社の風習として、「社内イベント（社員旅行など）」や「社外でのコミュニケーション（就業後の飲み会）」といった職場内コミュニケーションに関する項目を選択したのは1割程度にとどまった。

こうしたことから、会社や職場内の雰囲気を重視し、良好な人間関係のもと仕事を進めたいと考えていることが読み取れ、そのためには新入社員本人もコミュニケーション能力を高める必要があると捉えている姿勢がうかがえる。

2. 燃えている新入社員～どう育成するかは企業次第

これから仕事をするにあたっての自身の熱意を5点満点で自己採点すると、「5点」と「4点」をあわせて84%に達し、やる気を十分持って就職に臨んでいることが分かる。また、これからの自分は「情熱・活気のある赤」と回答している比率が高い。このことから、現時点での仕事へのモチベーションは高い水準にあると考えられる。

しかし、自身は将来「指示待ちサラリーマン」となってしまうのではないかと考えている比率が31%を占めており、そのため上司から指示されれば良心に反する仕事を「行う」「恐らく行う」と回答したのは、64%にまで達している。また、今のビジネスパーソンを「大変そうで活気がない灰色」と捉えており、やや自身の将来に閉塞感を持っている思考もうかがえる。

灰色にさせないために、現状のやる気や熱意を維持させられるよう、職場における今後の育成が重要なポイントとなるであろう。

3. 家事と育児の分担は男女で一致

パートナーとの家事と育児の分担比率を聞いたところ、家事・育児ともに、男性では自分：パートナー＝4：6、女性では自分：パートナー＝6：4という結果で一致した。現在の新入社員は、パートナーだけに家事や育児を任せるのではなく、分担志向があることがうかがわれ、今後は男性の育児休暇取得率が更に向上する可能性が推測される。

< 調査概要 >

調査時期	2006年3月27日～4月14日
調査対象	日本能率協会新入社員向け公開教育セミナー参加者
調査方法	研修1日目終了時に調査票を配布、翌日回収
回答数	863人 * 前回調査2005年度 916人
回答者性別	男性 592人(68.8%)、女性 268人(31.1%) 無回答 3人(0.3%)

本件に関するお問合せ先

社団法人日本能率協会

広報部 担当：上野、丸田

〒105-8522

東京都港区芝公園3-1-22

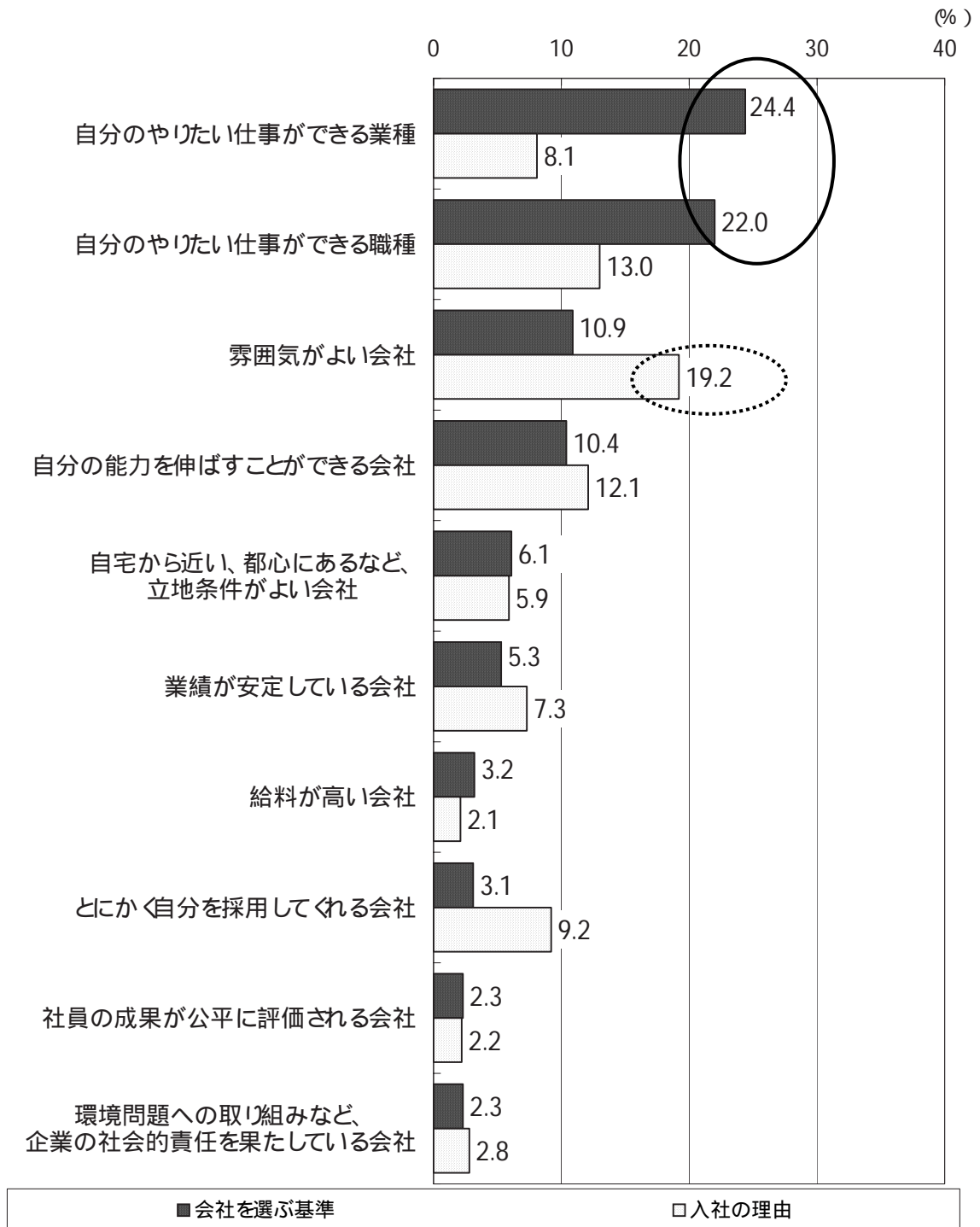
TEL: 03 - 3434 - 8620

FAX: 03 - 3433 - 0269

会社を選ぶ基準と入社理由（ひとつを選択）

会社を選ぶ基準については、「自分のやりたい仕事ができる業種」「自分のやりたい仕事ができる職種」の比率が高く、それぞれ 20%を超えているが、実際の上社理由に関しては、「雰囲気が良い会社」が最も高くなっている。

図1 会社を選ぶ基準と入社理由（n=863）

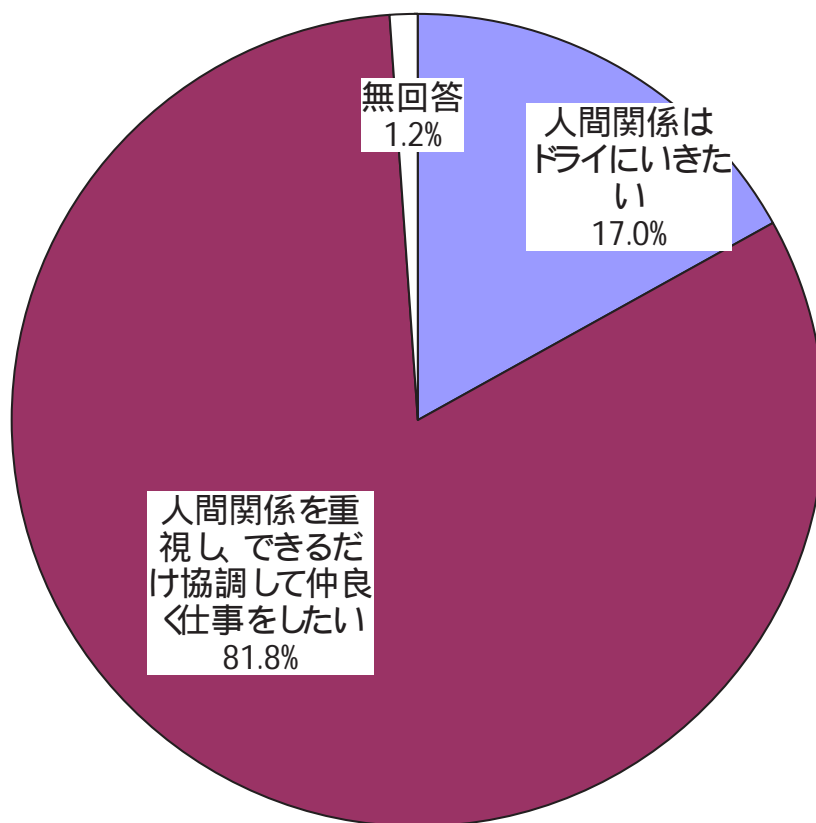


会社を選ぶ基準」の上位 10 項目までを表示

仕事と人間関係のバランス（ひとつを選択）

「人間関係を重視し、できるだけ協調して仲良く仕事をしたい」の比率が圧倒的に高く、80%以上を占めている。

図2 仕事と人間関係のバランス（n=863）

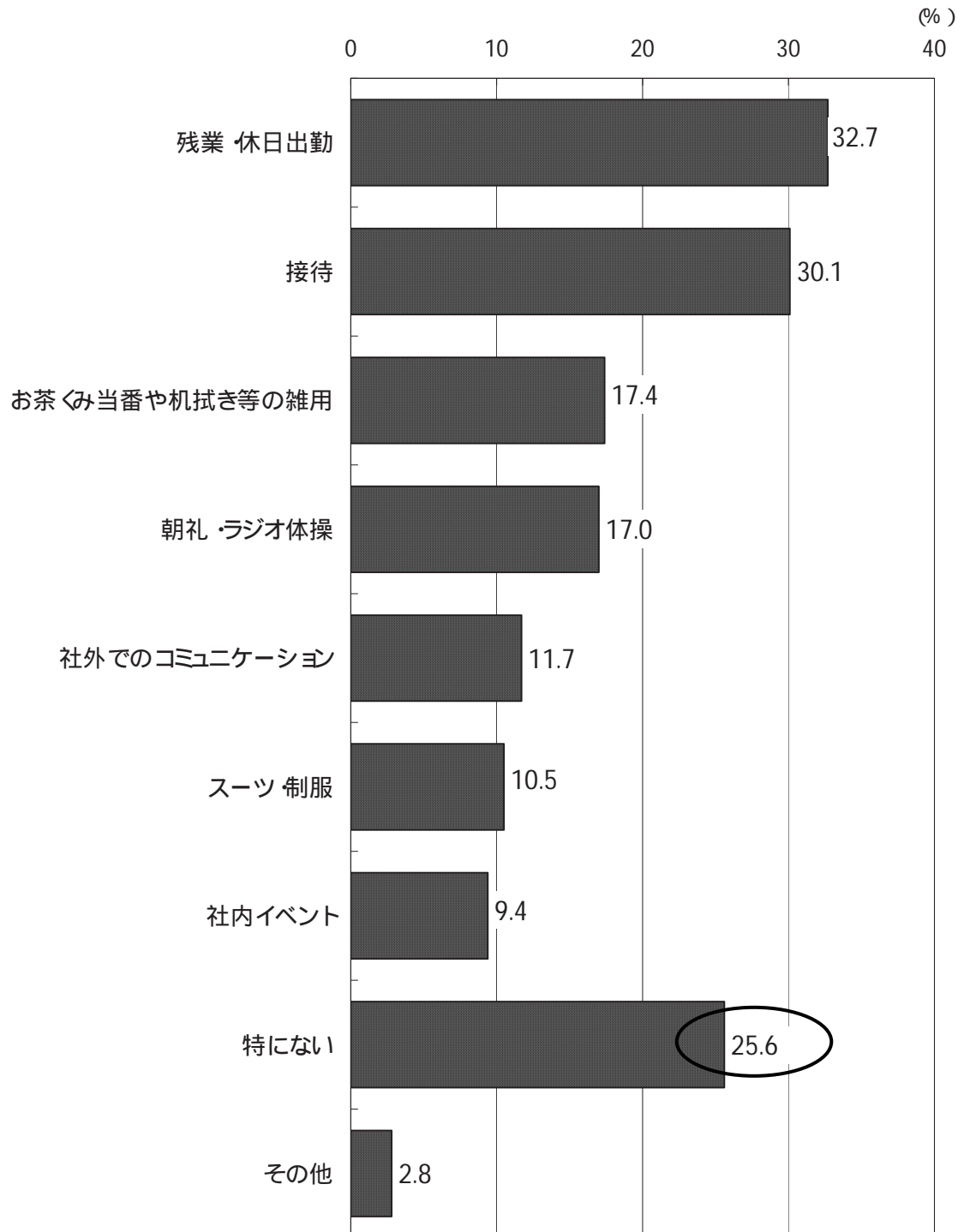


(n=863)

できればやりたくない会社の風習や慣習（あてはまるものすべてを選択）

「残業・休日出勤」と「接待」の割合が高く、30%を超えている。一方、「社外でのコミュニケーション」や「社内イベント」については10%程度と割合が低く、また、「特にない」も26%となっている。

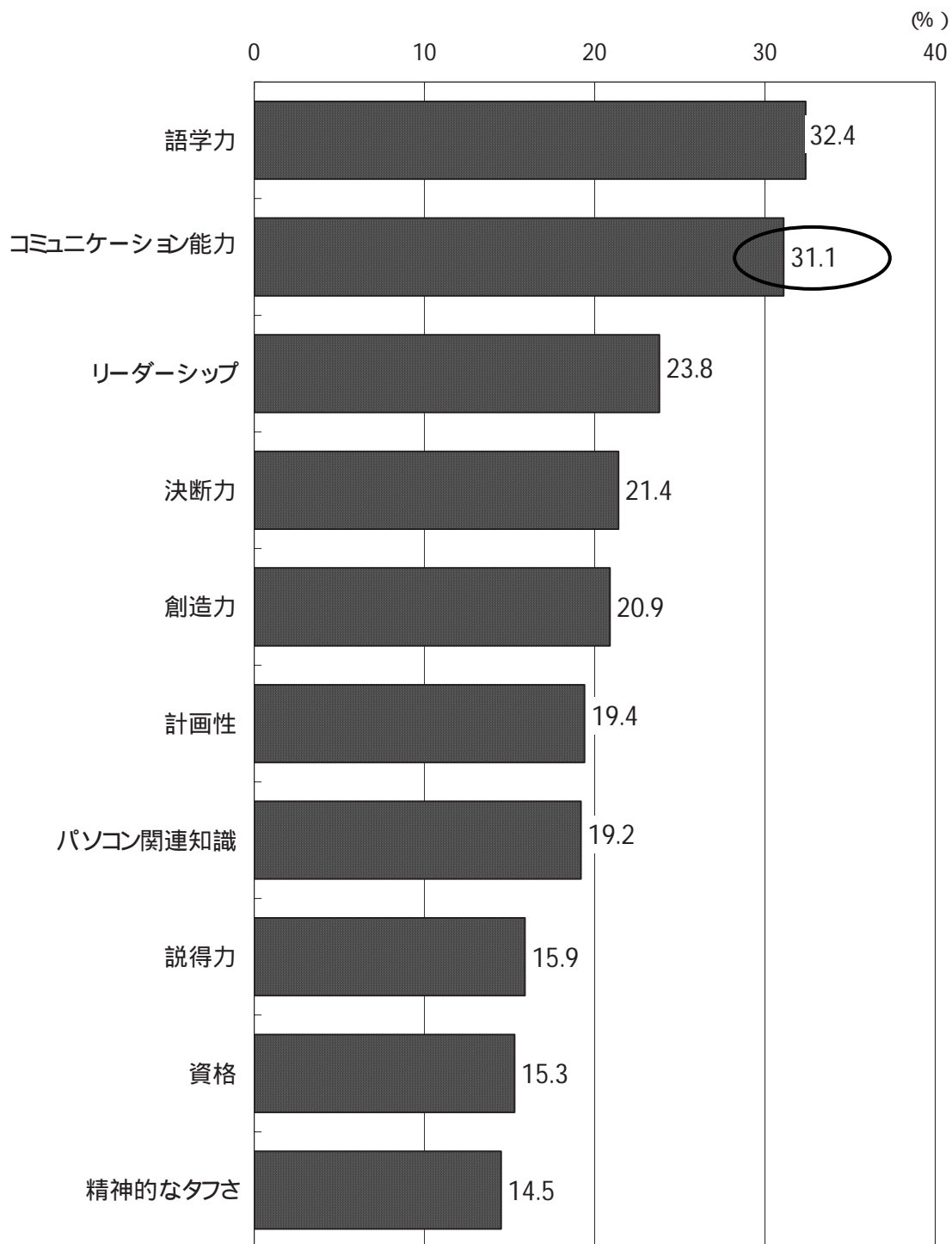
図3 できればやりたくない会社の風習や慣習（n=863）



今後伸ばしたい項目（3つまで選択）

「語学力」および「コミュニケーション能力」が高く、30%を超えている。

図4 今後伸ばしたい項目（n=863）

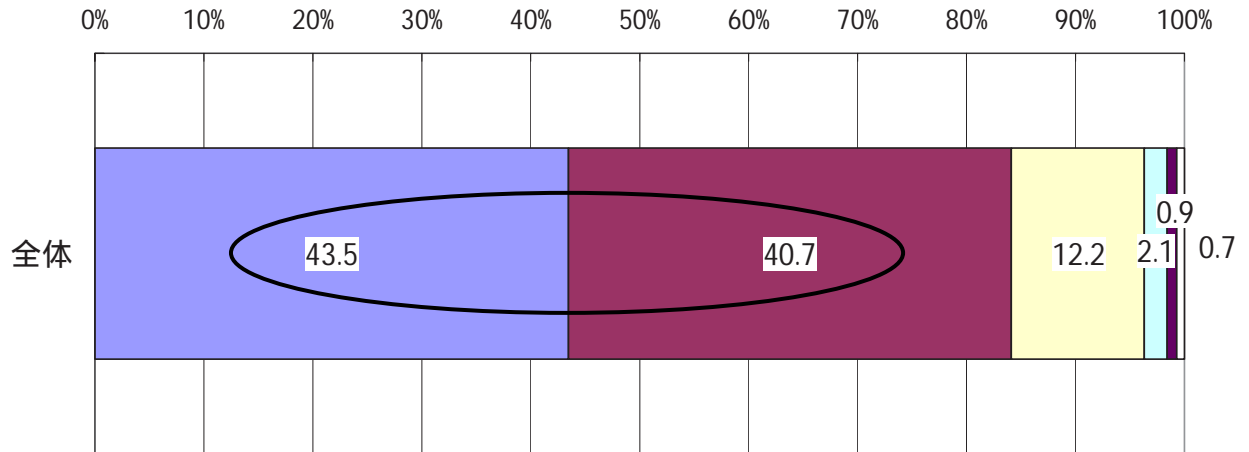


上位 10 項目までを表示

これから仕事をする上での熱意・やる気（ひとつを選択）

「5点」「4点」で8割以上を占めており、熱意の高さがうかがわれる。

図5 これから仕事をする上での熱意（n=863）



自身とビジネスパーソンを例えた色とその理由（色・理由ともにひとつを選択）

「これからの自分」を色に例えると、「赤」と答えている比率が最も高く、その理由として「情熱・活気があるから」と回答している比率が高い。

一方、「今のビジネスパーソン」については、「灰色」が最も多く、その理由として「大変そうだから」「疲労感・活気がないから」の値が高くなっている。

図6 自身とビジネスパーソンを例えた色（n=863）

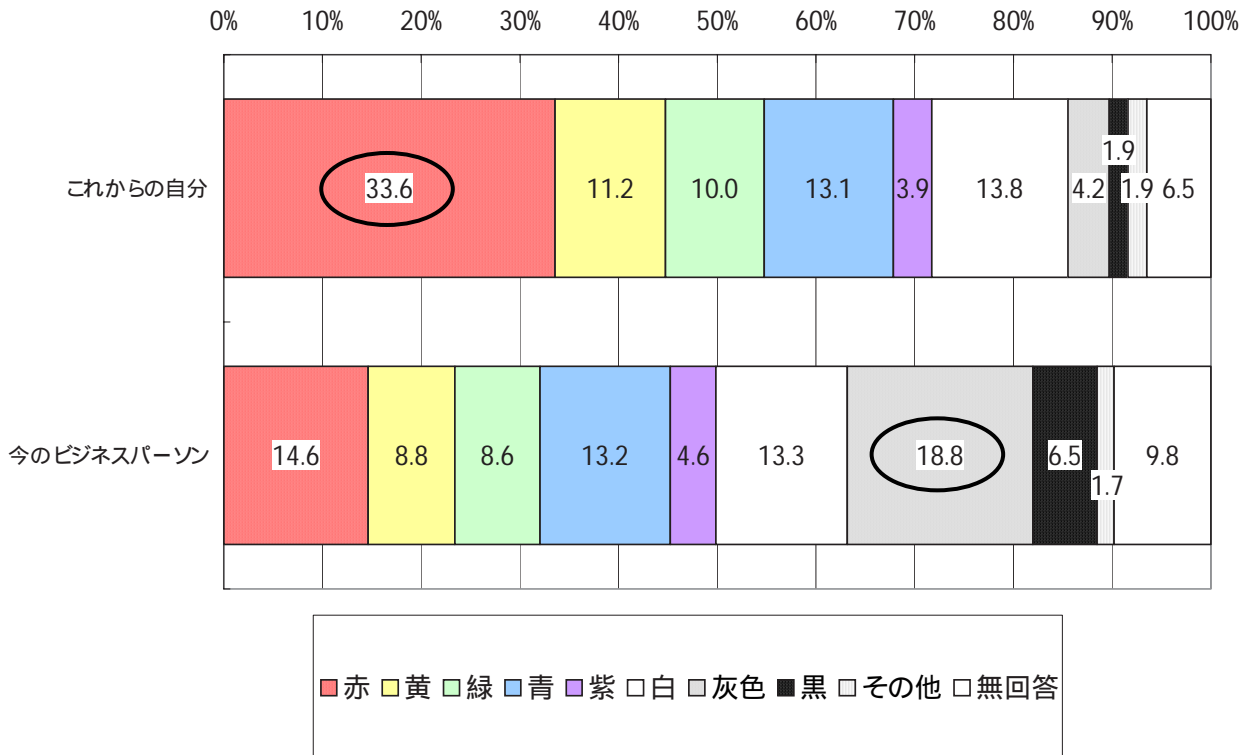


図7 「赤」を選んだ理由（n=290）

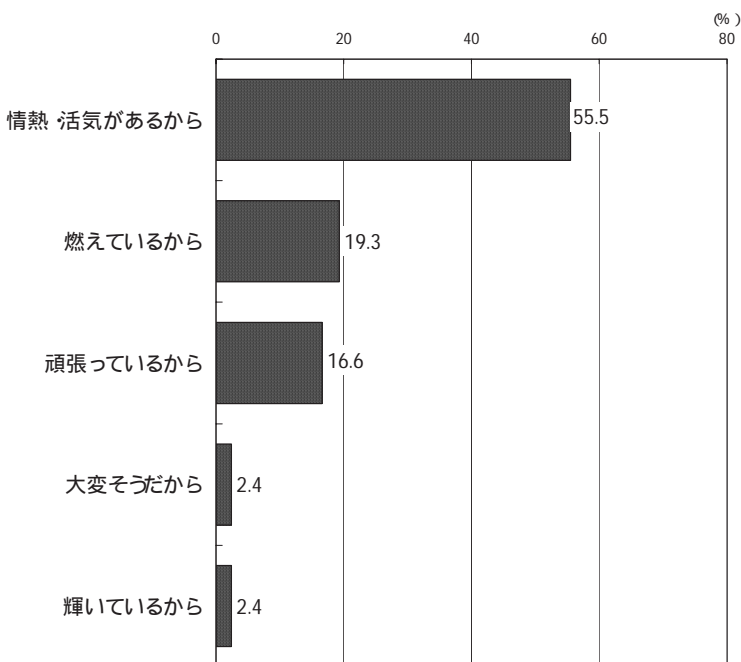
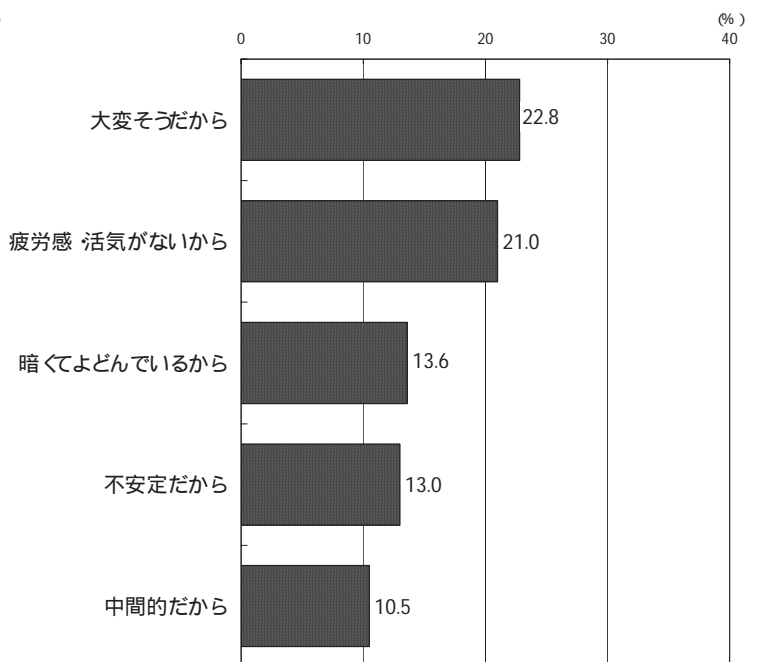


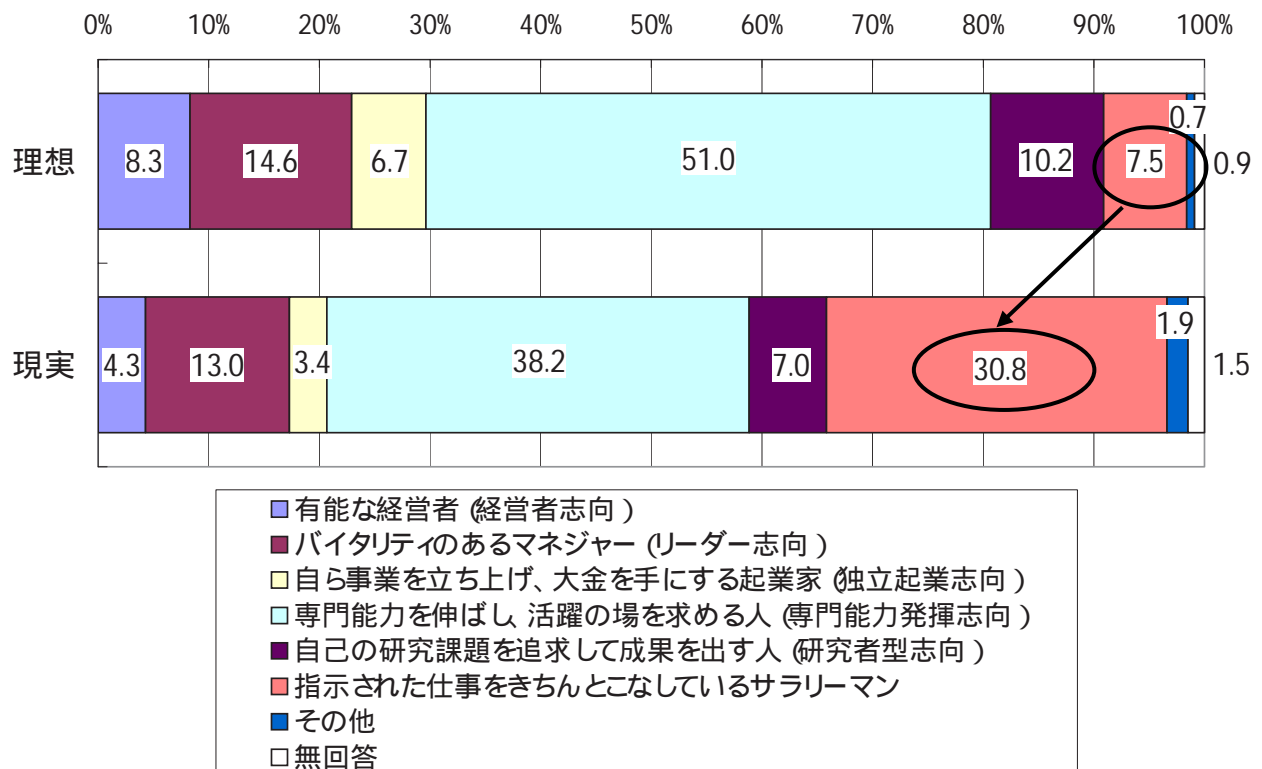
図8 「灰色」を選んだ理由（n=162）



将来担いたい役割（理想）と将来担っていると思われる役割（現実）（それぞれひとつを選択）

将来理想として担いたい役割についてみると、「専門能力発揮志向」が最も高く 50%以上を占めるのに対し、現実に担っていると思われる役割についてみると、「指示された仕事をこなしているサラリーマン」の比率が 31%と、理想と比べて 20 ポイント以上高くなる。

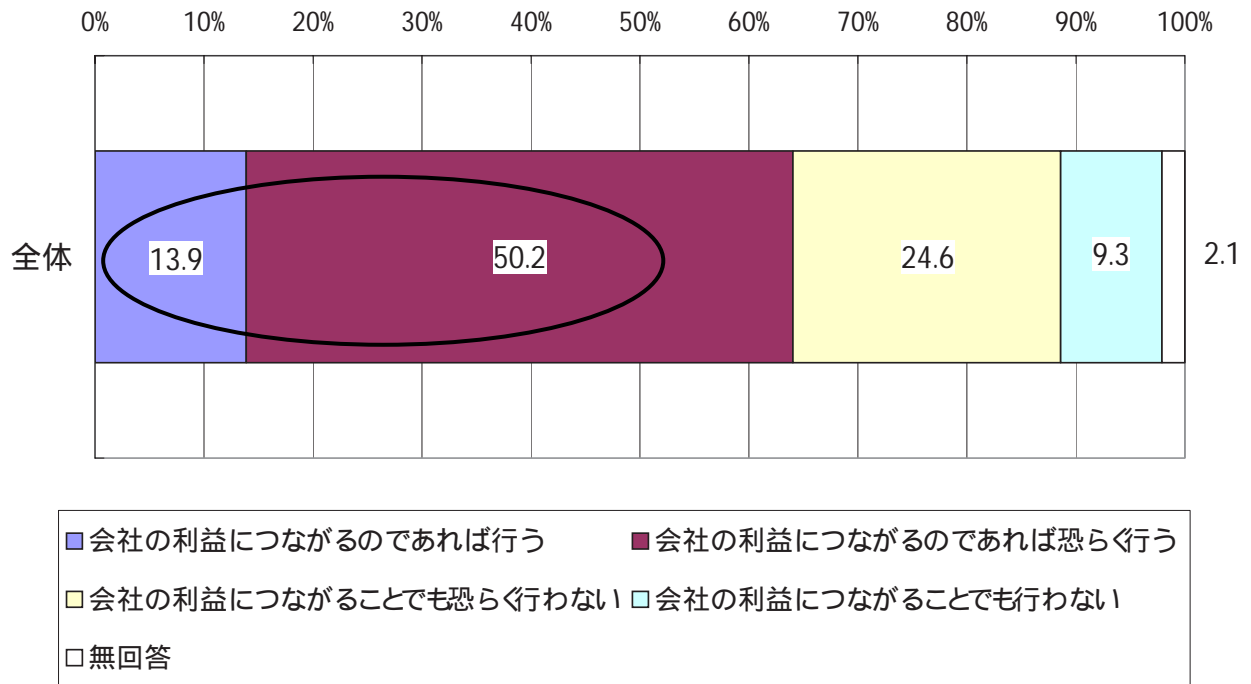
図9 将来担いたい役割と担っていると思われる役割（n=863）



良心に反する仕事を指示されたときの対応（ひとつを選択）

「行う」「恐らく行う」で60%以上を占めている。

図10 良心に反する仕事を指示されたときの対応（n=863）



家事 / 育児の分担 (比率の合計が 10 になるよう数値を記入)

家事・育児ともに、男性では自分 : パートナー = 4 : 6、女性では自分 : パートナー = 6 : 4 という結果で、男女の志向が一致している。

		自分	:	パートナー
家事	男性	3.85	:	6.15
	女性	6.12	:	3.88
育児	男性	3.99	:	6.01
	女性	5.83	:	4.17